

個人 対 個人 の共同研究の橋渡し： 宇治電子サロン

村田卓也* (t-murata@kura.kyoto-u.ac.jp)、
田上款、高橋和彦（京都大学学術研究支援室）

勝手に コアタイム！

9月15日（水）（大会2日目）
12:45-13:30
に説明します！
（Zoomに集合 →）

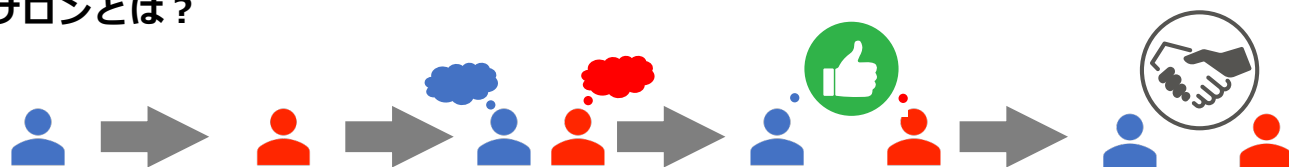


要旨

京都大学学術研究支援室の宇治地区担当チームでは、昨年度から「宇治電子サロン」の企画と運営に携わってきました。この電子サロンは、宇治地区における若手研究者に対し、学内外を問わない新しい共同研究のパートナー探しや共同研究に向けた打ち合わせに密着し、研究者同士の共同研究を促進するものです。「電子サロン」は、コロナ禍において電子会議システムを用いたサロンのような話し合いをイメージして名付けました。

電子サロンを行う過程で、若手研究者の本来の研究テーマを離れて、学外の研究者とともに新しい異分野交流分野の構築を目指す例が生まれて来ました。本RA協議会では、宇治電子サロンの事例を紹介する中で、個人対個人の共同研究をいかに見出し支援につなげていくか、RA協議会会員の皆様と議論ができればと思います。

宇治電子サロンとは？



研究者	参加研究者	招待研究者	電子サロン	意気投合！	共同研究へ
URA	招待研究者を探索		サロン開催を オーガナイズ	サロンを ファシリテート	研究資金 獲得を支援

事例紹介

Part1	参加研究者	A助教
	招待研究者	
	選抜のポイント	優秀な若手研究者として以前より支援。研究内容が最先端すぎて、逆に共同研究は厳しいか？
	結果及び途中経過	気になっている異分野の研究者がいないとのこと。電子サロンへの参加表明を得られず。
Part2	参加研究者	B准教授
	招待研究者	学外の研究者（C講師@c大学）をB准教授が提案
	選抜のポイント	外部資金獲得支援の過程で、先生の研究が共同研究にとっても向いていることを認識。
	結果及び途中経過	現在までにC講師と3度サロンを開催。共同研究の進捗を待っているところ。
Part3	参加研究者	D助教
	招待研究者	学外の研究者（E准教授@e大学）をURAが提案。次のタイミングでF准教授@f大学をD助教が提案
	選抜のポイント	ポストアワード支援の過程で、オープンマインドな性格が電子サロン向きな研究者であることを認識。
	結果及び途中経過	E准教授との間で2度サロンを開催。F准教授を加え、共同研究の方向性を議論。

まとめ

- ・ 宇治電子サロンは、いわば草の根的な異分野交流推進プログラムであり、例えば研究者に密着する部局担当のURAにとっては取り組みやすい支援だと思われます。
- ・ 参加研究者の候補者探しは、日頃の支援の中からヒントが得られます。
- ・ コロナ禍を逆手にとれば、電子サロンに海外の研究者が参画することもできます。



京都大学
KYOTO UNIVERSITY



京都大学 学術研究支援室
Kyoto University Research Administration Office